

2023年3月期 第2四半期

# 決算説明会

2022年11月29日  
三櫻工業株式会社  
(証券コード：6584 東証プライム)

# 2023年3月期 第2四半期 決算の概要

取締役CFO 佐々木 宗俊

# 2023年3月期 第2四半期 連結損益状況



	2022年3月期 第2四半期 実績		2023年3月期 第2四半期 実績				2023年3月期 通期予想	
	金額 (百万円)	売上高比 (%)	金額 (百万円)	売上高比 (%)	対前年同期		金額 (百万円)	進捗率 (%)
					増減額 (百万円)	増減率 (%)		
売上高	58,119	100.0	63,599	100.0	+5,480	+ 9.4	128,000	49.7
営業利益	3,416	+ 5.9	▲910	▲ 1.4	▲4,325	-	2,500	-
経常利益	3,679	+ 6.3	▲411	▲ 0.6	▲4,090	-	2,400	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,226	+ 5.6	▲1,746	▲ 2.7	▲4,972	-	1,000	-

## ● 2023年3月期 第2四半期 業績概要 (対前年同期比)

## ● 為替レート

- 売上高：半導体不足等によるサプライチェーンの混乱及び上海ロックダウンによる生産減を円安による換算レート影響が補い増収。
- 営業利益：為替影響を除く実質売上減に伴う減益に加え材料費、物流コスト及び人件費高騰に対し価格転嫁が遅れたことによる営業損失。
- 経常利益：営業損失の拡大による経常損失。
- 純利益：営業損失の拡大に加え、損害賠償損失引当の計上による純損失。

損益換算レート (単位：円)	2022年3月期 第2四半期 平均レート	2023年3月期 第2四半期 平均レート	変動率
ドル	107.7	122.9	+14%
ユーロ	129.8	134.3	+3%
メキシコペソ	5.3	6.1	+14%
人民元	16.7	18.9	+14%
インドルピー	1.5	1.7	+15%
タイバーツ	3.5	3.7	+4%
ロシアルーブル	1.5	1.7	+17%
ブラジルリアル	20.0	24.3	+21%

# 2023年3月期 第2四半期 セグメント別実績

	売上高			営業利益		
	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	対前年同期 増減	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	対前年同期 増減
	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)
日本	20,817	21,466	+648	1,057	228	▲829
北南米	16,305	18,989	+2,685	188	▲2,172	▲2,360
欧州	11,333	11,357	+24	526	▲140	▲666
中国	9,890	9,177	▲712	755	209	▲546
アジア	9,485	12,357	+2,872	1,003	943	▲60
連結調整	▲9,711	▲9,747	▲37	▲113	23	+135
合計	58,119	63,599	+5,480	3,416	▲910	▲4,325

## ● 2023年3月期 第2四半期の地域別業績のトピックス (対前年同期比)

- 日本【増収・減益】 売上は生産量自体は前期と同水準となるも海外売上に対する為替影響を受けて増収。利益面は材料費高騰の価格転嫁が進まず、経済活動の正常化に合わせた活動再開で固定費が増加し減益。
- 北南米【増収・営業赤字】 北米における半導体不足に伴う客先の減産に伴い、円安による換算レートの影響を除いた実質売上は減収。利益面は実質的な減収に加え物流網の混乱、輸送費の高騰、材料費を含むインフレ、人手不足を背景とする人件費の上昇などの急激なコスト上昇に対する価格転嫁の遅延等により、前期下期からの営業赤字が拡大。
- 欧州【増収・営業赤字】 半導体供給不足、ロシア・ウクライナ問題によるサプライチェーンの混乱に伴い、実質減収。利益面も実質減収に伴う減益に加え、樹脂材料費の高騰、インフレ及び人材確保難を背景とする人件費の上昇、採用活動費等により固定費が増加し、営業損失。
- 中国【減収・減益】 売上はゼロコロナ政策に伴う上海でのロックダウンによる4月及び5月の大幅な生産減影響を受け、減少。利益面も円安による材料為替差益に加え人件費抑制等によるコスト削減を図るも、生産量急減に伴う減益影響が大きく、減益。
- アジア【増収・減益】 円安による換算レートの影響に加え、新型コロナウイルス感染症に対する制限緩和を受けての生産挽回による増産により増収。利益面は増収に伴う付加価値増を人件費等の固定費増加が圧迫し、減益。

# 2023年3月期 第2四半期 営業外及び特別損益等



(増減額の符号は対利益符号)

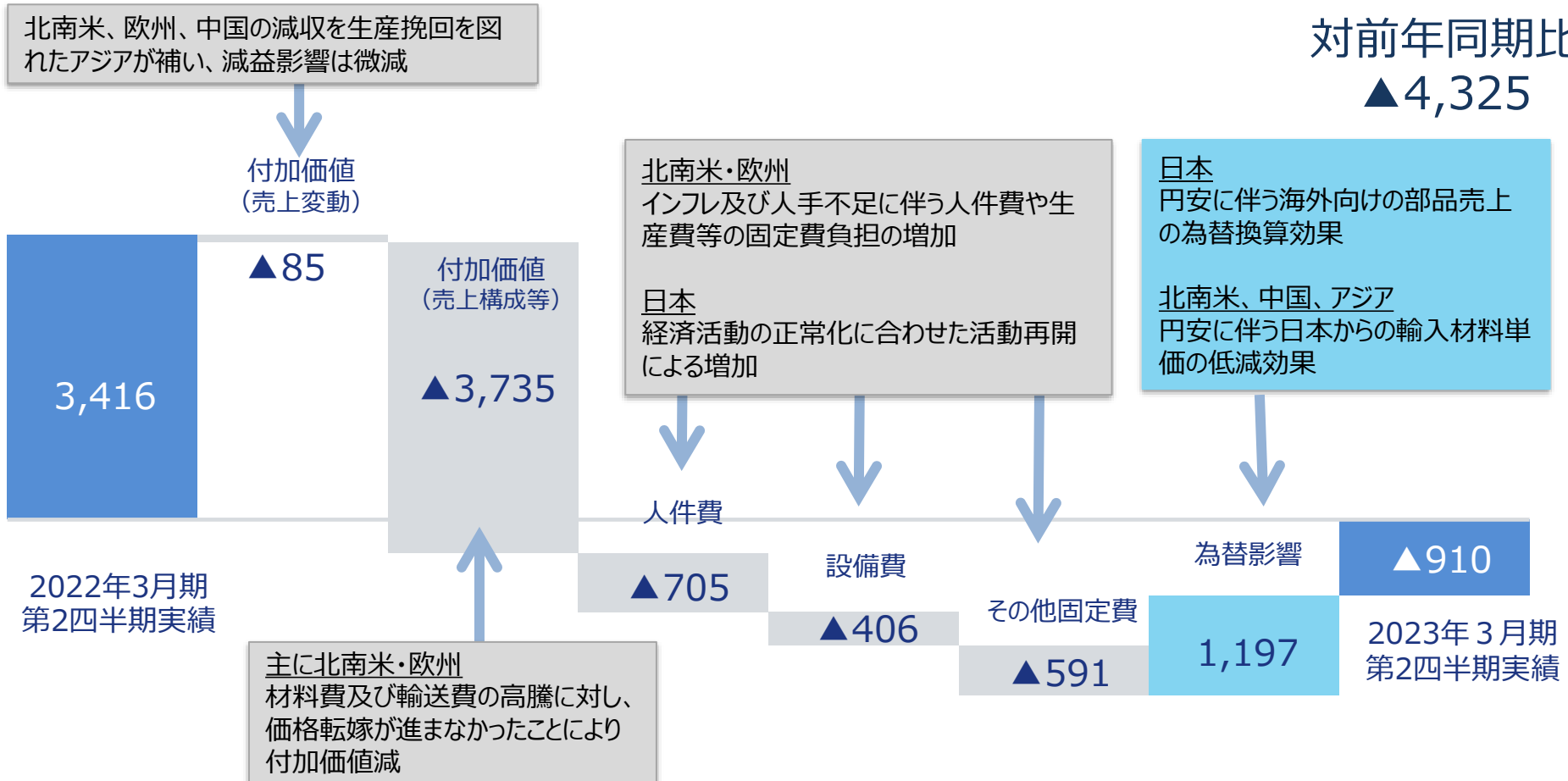
連 結		2022年3月期 第2四半期 実績	2023年3月期 第2四半期 実績			主な増減要因 (金額は百万円)
		金額 (百万円)	金額 (百万円)	対前年同期		
				増減額 (百万円)	増減率 (%)	
営業利益		3,416	▲910	▲4,325	-	
営業外 損益	営業外収益	533	944	+412		為替差益の増加 +318
	営業外費用	269	446	▲176		支払利息の増加 ▲234
経常利益		3,679	▲411	▲4,090	-	
特別利益		757	21	▲735		製品保証引当金戻入額 (前期 +699、当期 発生なし)
特別損失		17	308	▲292		損害賠償損失引当金繰入額 ▲272 (前期 発生なし、当期 ▲272)
税引前四半期純利益		4,419	▲698	▲5,117	-	
法人税等		881	787	+94		
非支配株主利益		312	262	+50		
親会社株主に帰属する 四半期純利益		3,226	▲1,746	▲4,972	-	

# 2023年3月期 第2四半期 営業利益分析

半導体供給及びサプライチェーンの問題による減収に加え、材料費や輸送費の高騰、インフレ及び人材確保難を背景とする人件費等の固定費負担の増加により、営業損失が拡大。

(単位：百万円)

対前年同期比  
▲4,325



注：付加価値（売上変動）＝連結全体の売上増減（為替補正後）×前期付加価値率（為替補正後）

# 2023年3月期 第2四半期 連結財務状況：対前期末



連 結		2022年3月期末		2023年3月期 第2四半期			
		実績 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前期末増減額 (百万円)	主な増減要因 (百万円)
流動資産	流動資産	53,485	55.5	59,453	57.5	+ 5,967	総資産： +6,992 増加 ① 営業債権 +1,693 ② 棚卸資産 +2,901 ③ 有形固定資産 +2,160 ④ その他投資有価証券 ▲1,508
	固定資産	42,952	44.5	43,976	42.5	+ 1,025	
	資産合計	96,437	100.0	103,429	100.0	+ 6,992	
流動負債	流動負債	36,863	38.2	44,247	42.8	+ 7,383	負債総額： +7,044 増加 ⑤ 営業債務 +703 ⑥ 短期借入金 +2,997 ⑦ 未払金 +616 ⑧ 流動負債その他 +2,563 ⑨ 長期借入金 ▲1,085 ⑩ 損害賠償損失引当金 +272
	固定負債	17,891	18.6	17,551	17.0	▲ 339	
	負債合計	54,754	56.8	61,798	59.7	+ 7,044	
純資産合計	純資産合計	41,682	43.2	41,631	40.3	▲ 52	純資産： ▲52 減少 ⑪ 利益剰余金 ▲2,201 ⑫ 有価証券評価差額金 ▲1,066 ⑬ 為替換算調整勘定 +3,341
負債純資産合計	負債純資産合計	96,437	100.0	103,429	100.0	+ 6,992	

(注1) D/E レシオ…前期末 0.74 → 当期末 0.80

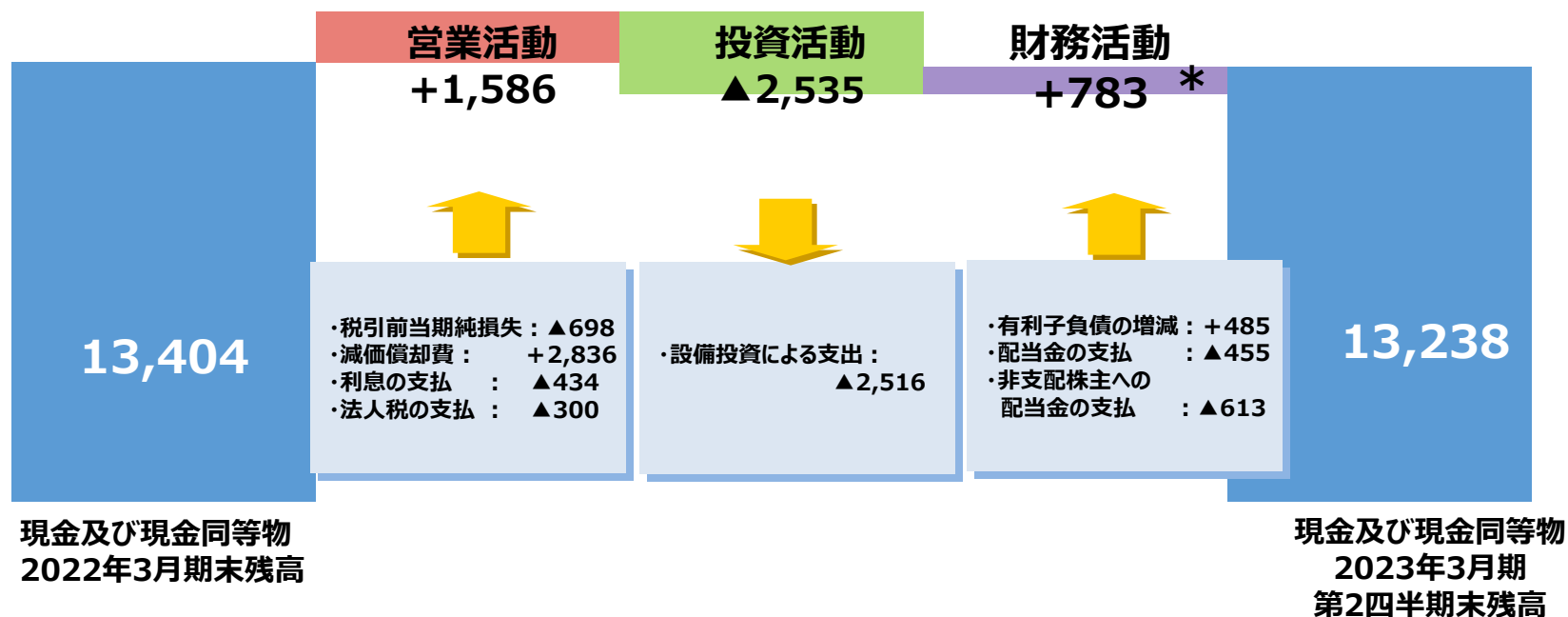
(注2) 自己資本比率…前期末 40.1 → 当期末 37.3

	前期末	当期末
①有利子負債	28,677	30,707
②自己資本	38,643	38,576
①/②	0.74	0.80

# 2023年3月期 第2四半期 連結キャッシュ・フローの状況

## ● 2023年3月期 第2四半期 連結キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)



## ● 設備投資/減価償却の状況

(単位：百万円)

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	
		実績	対前年同期
設備投資額	2,407	2,516	+108
減価償却費	2,468	2,836	+368



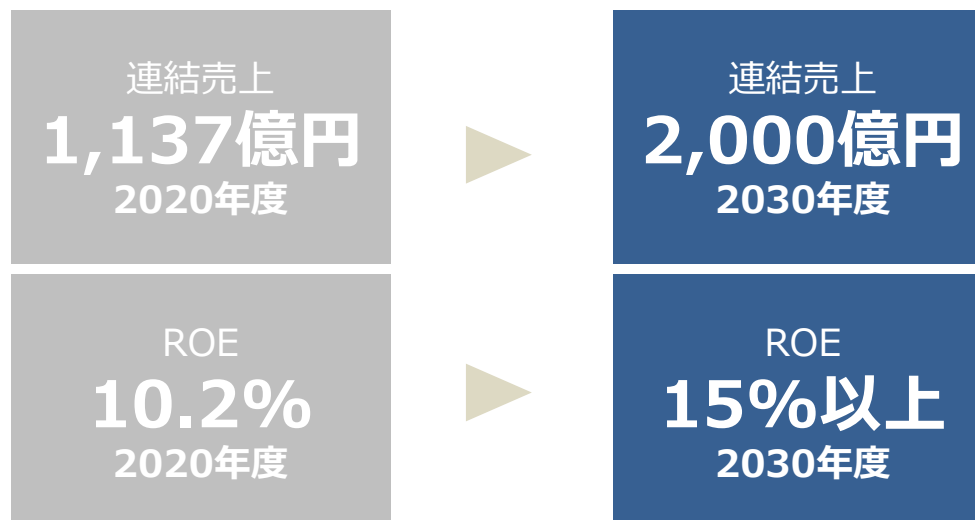
# 中期経営方針の 取り組み

取締役社長 竹田 玄哉

アフター・コロナの世界において、平均年率6%の成長を目指します

中期方針3本の柱	▶ 存続する自動車市場において、圧倒的な高収益・高品質基盤を確立する	既存事業
	▶ サーマル・マネジメントのソリューションにおいて世界のトップ・プレイヤーとなり、環境負荷低減に貢献する	サーマル・ソリューション事業
	▶ 自動車事業にとらわれない新事業を創出する 地域経済に貢献する新たな事業を創出する	次世代コア事業

## 定量目標



DXにより、既存事業の収益率と品質保証レベルを更に高度なものに

中期方針3本の柱

- ▶ 存続する自動車市場において、圧倒的な高収益・高品質基盤を確立する
- ▶ サーマル・マネジメントのソリューションにおいて世界のトップ・プレーヤーとなり、環境負荷低減に貢献する
- ▶ 自動車事業にとらわれない新事業を創出する  
地域経済に貢献する新たな事業を創出する

既存事業

サーマル・ソリューション事業

次世代コア事業



既存事業売上

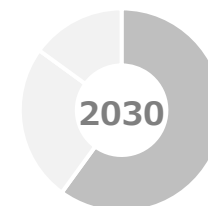
1,200億円

2030年度

既存事業営業利益率

10%以上

2030年度



I・II 既存事業

既存事業を深化させつつ、EV化の流れがさらに加速する中で関連製品の売上拡大を目指し、開発・設計・試作段階からの関与を強化。

- 試作用シミュレータを活用し開発リードタイムの短縮化
- 2022年10月「技術開発部」新設、既存事業にかかわる技術強化への体制を整備
- 最近の受注実績
  - 日産軽EV「サクラ」にブレーキチューブ採用（2022/6/24開示）
  - 日系自動車メーカーからのブレーキ配管受注  
2023年10月より生産・納入開始（2022/6/30開示）
  - ステランティス・グループからのブレーキ配管受注(2022/11/28開示)
  - Toyota Motor Manufacturing France S.A.S.への欧州域内調達ブレーキチューブの供給開始（2022/11/28開示）

最適な熱輸送設計と品質保証力により、環境負荷を低減する

中期方針3本の柱

▶ 存続する自動車市場において、圧倒的な高収益・高品質基盤を確立する

▶ サーマル・マネジメントのソリューションにおいて世界のトップ・プレイヤーとなり、環境負荷低減に貢献する

▶ 自動車事業にとらわれない新事業を創出する  
地域経済に貢献する新たな事業を創出する

既存事業

サーマル・ソリューション事業

次世代コア事業



「富岳」採用製品



「bZ4X」採用製品

サーマル・ソリューション事業売上

**500億円**

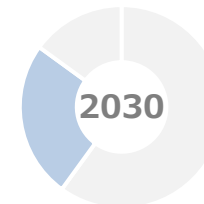
2030年度

EV, PHEV, HEV製品売上目標

**250億円**

HPC冷却製品売上目標

**250億円**



III サーマル・ソリューション事業

スーパーコンピューターやデータセンターで現在主流の空冷から、よりエネルギー効率のいい水冷・冷媒へのシフトを促し、ビジネスチャンスにつなげるよう活動を活発化。

- EV, PHEV, HEV製品の受注実績
  - トヨタBEV「bZ4X」に冷却水用樹脂配管採用 (2022/5/13開示)
  - 日系商用車メーカーグループからの冷却水用樹脂配管受注。  
2023年1月より生産・納入開始 (2022/6/30開示)
- HPC冷却製品の受注実績
  - 富士通「Fujitsu クラウドサービス HPC」に冷却水用樹脂配管採用 (2022/5/20開示)
  - サーマル・ソリューション事業 データセンター及び CPU/GPU 向け水冷式冷却システム専用ウェブサイト開設 (2022/10/24開示)

## テクノロジーで社会の課題を解決する

中期方針3本の柱

▶ 存続する自動車市場において、圧倒的な高収益・高品質基盤を確立する

既存事業

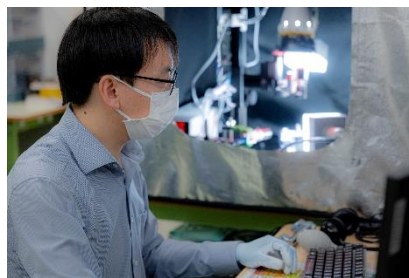
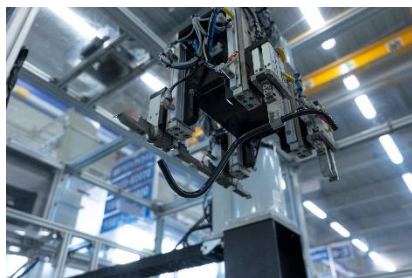
▶ サーマル・マネジメントのソリューションにおいて世界のトップ・プレイヤーとなり、環境負荷低減に貢献する

サーマル・ソリューション事業

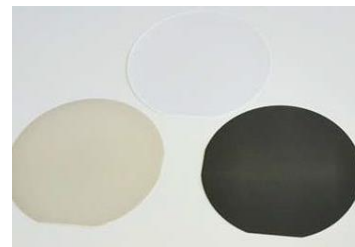
▶ 自動車事業にとらわれない新事業を創出する  
▶ 地域経済に貢献する新たな事業を創出する

次世代コア事業

### 生産ソリューション事業



### 研究開発とCVC



2021.7 GaN基板加工サービス開始

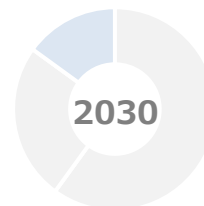


2022.3 プラグ社に出資

次世代コア事業売上

**300億円**

2030年度



IV 次世代コア事業

知の探索を通じ自社の既存技術に捉われず、可能性の種を播き、将来の成長に向けた布石を打つ。

- 産学共同研究やベンチャーへの出資：  
熱電発電素子やGaN研磨加工サービス、バッテリーモジュールの開発など、多くのプロジェクトが並行して進行中
- ものづくりを通じて若年層に専門知識や技術を継承する次世代教育



クルマとしてではなく、三桜のブランドを確立するためにESGの強化にリソースを投下する

- 事業活動による社会・環境への影響を評価し、優先順位を明確化する「マテリアリティ（重要課題）」の特定討議中。今後さらなる検討を経て発表の予定。

『環境にやさしい三桜』ブランドの確立  
自動車の軽量化、燃費向上への貢献  
生産プロセスにおけるCO2排出量削減  
サーマル・ソリューション事業への投資

## Environment



地域・社会貢献活動  
事業所内保育施設の運営  
テレワーク制度の導入

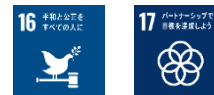


TABLE FOR TWOプログラムの導入

## Social



## Governance



独立社外取締役が取締役会の過半数を占める体制へ  
ダイバーシティの推進  
非財務情報の開示の充実  
IR活動を通じたステークホルダーとの信頼関係の深化



# 会社概要

2022年11月

## 会社の概況 (2022年3月31日現在)

商号	三桜工業株式会社(登記社名:三桜工業株式会社)
英文商号	Sanoh Industrial Co., Ltd.
設立年月日	1939年3月24日
資本金	34億8,110万円
従業員数(連結)	7,701名
主要製品	ブレーキチューブ、フューエルチューブ、フューエルインジェクションレール、スチールチューブ製品および樹脂チューブ製品、クイックコネクター、シートベルト用バックル、ショルダーアジャスター、設備等

## 役員 (2022年6月23日現在)

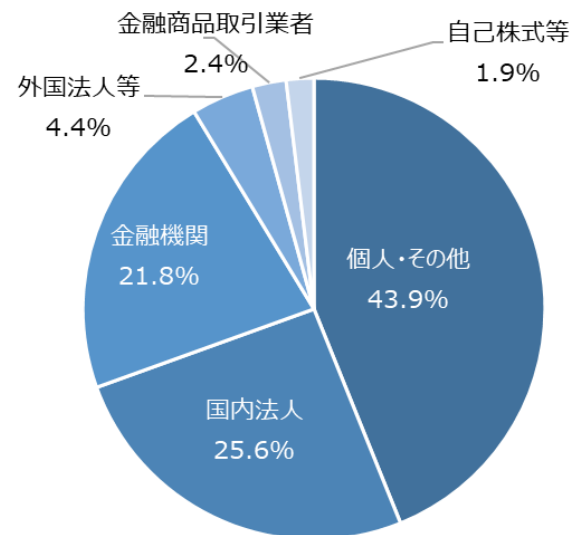
取締役会長	竹田 陽 三	取締役(社外)	入山 章 栄
取締役社長	竹田 玄 哉	取締役(社外)	井澤 吉 幸
取締役	佐々木 宗 俊	常勤監査役	三輪 はるか
取締役(社外)	森地 高 文	監査役(社外)	春名 孝 昭
取締役(社外)	浪江 一 公	監査役(社外)	平石 智 紀
取締役(社外)	金子 素 久		

## 株式の状況 (2022年9月30日現在)

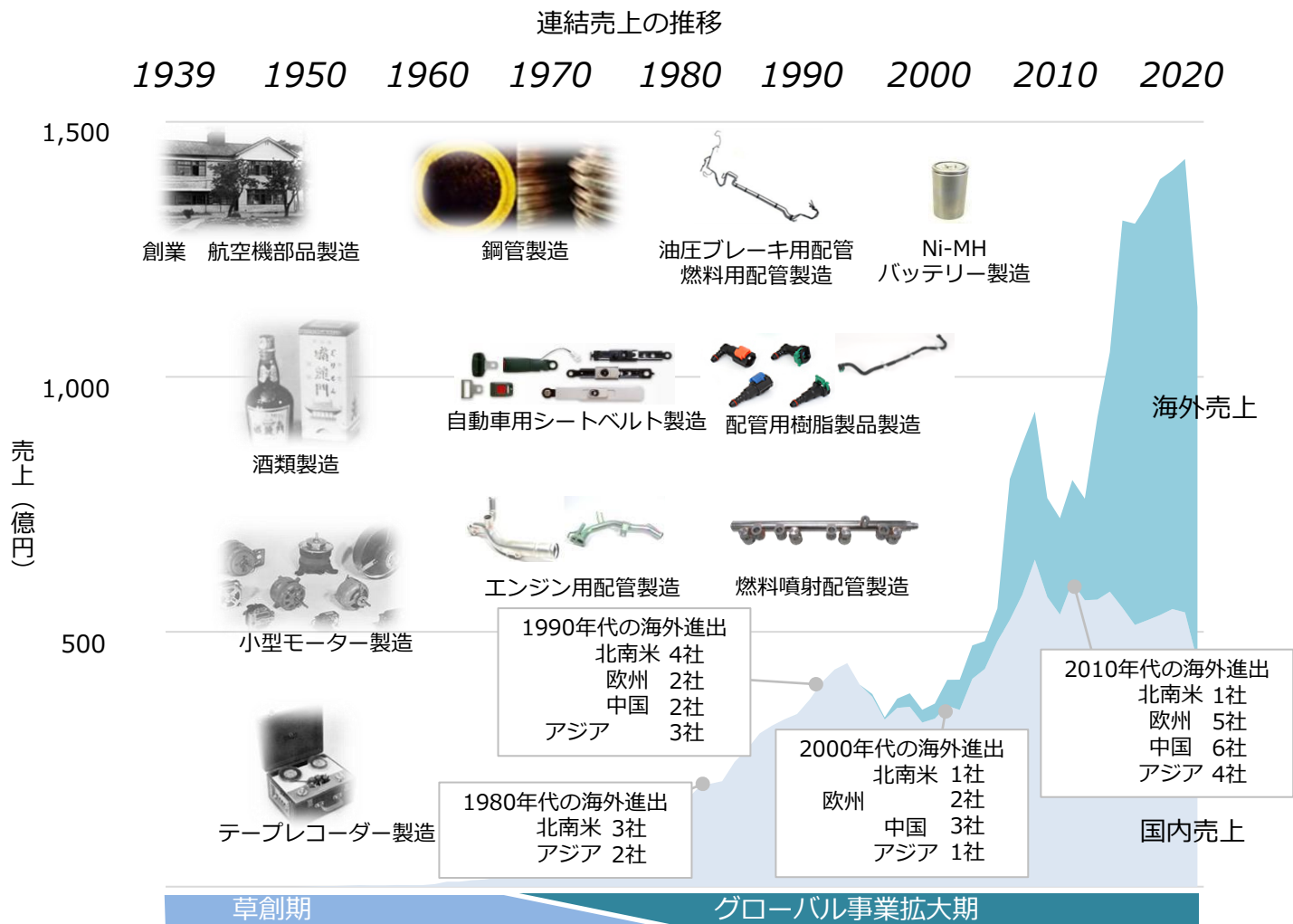
発行可能株式総数 144,848,000株  
 発行済株式の総数 37,112,000株  
 株主数 17,290名

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,695	10.15
神鋼商事株式会社	2,212	6.08
本田技研工業株式会社	2,000	5.50
スズキ株式会社	1,600	4.40
有限会社竹田コーポレーション	1,500	4.12
株式会社三菱UFJ銀行	1,419	3.90
株式会社常陽銀行	1,280	3.52
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,243	3.42
アルコニックス株式会社	780	2.14
個人株主	514	1.41

## 所有者別の株式保有比率 (2022年9月30日現在)



自己変革と多様性が三桜のDNAです



創業  
**1939**年

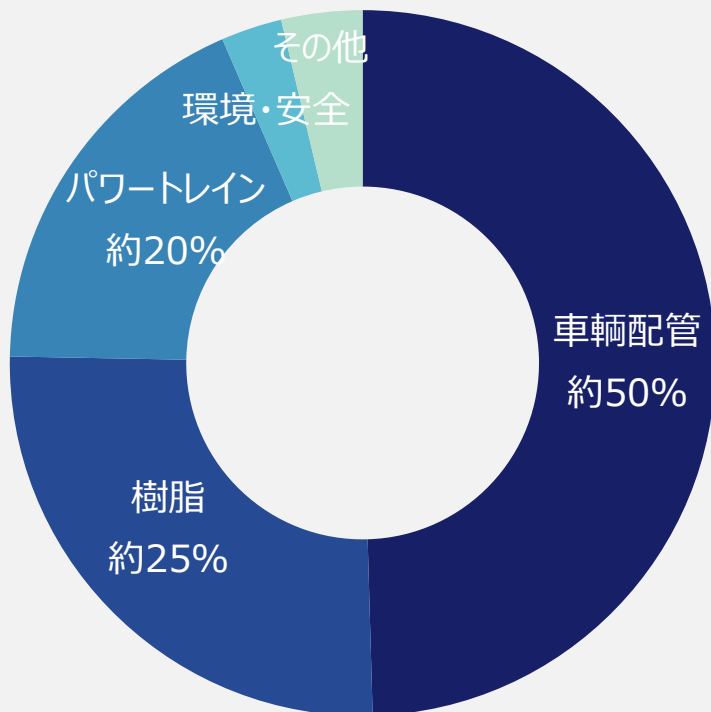
**19**カ国  
**83**拠点

連結従業員総数  
**7,701**名  
(単体：1,138名)

# 製品別売上構成・製品ラインナップ（チューブ）

当社の主要製品は車輻配管をはじめとする配管製品が大半を占め、その素材は金属から樹脂まで幅広く取り扱っており、異なる素材を加工し接合する異材接合技術を強みとしています。

## 売上構成（ご参考）



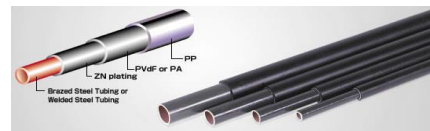
ダブル  
スチールチューブ



シングル  
スチールチューブ



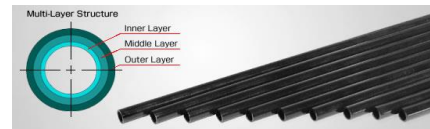
PAコート  
チューブ



PCコート  
チューブ



単層樹脂チューブ



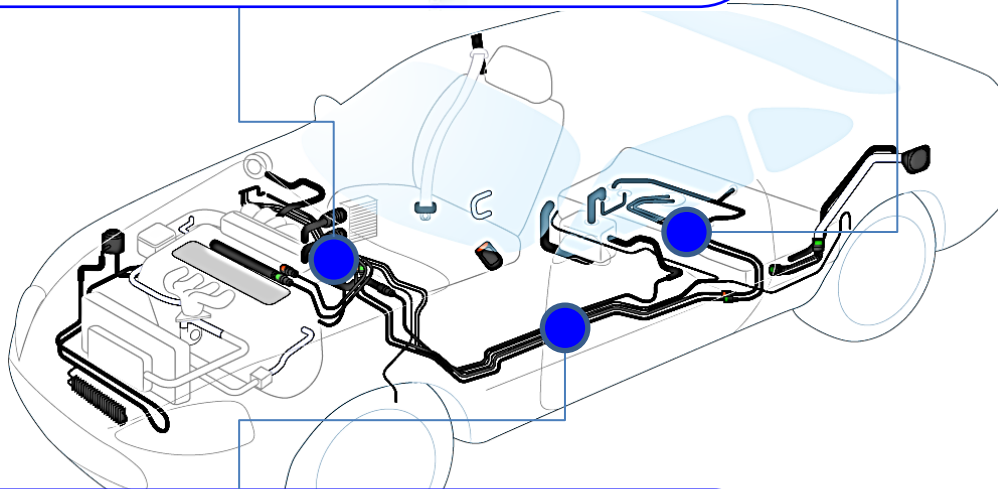
多層樹脂チューブ



コンポジット樹脂  
チューブ

ブレーキチューブ

ブレーキバキュームチューブ



集合配管



樹脂燃料配管

クイックコネクター



タンクジャンパー



ベーパーリターンチューブ



ORVRチューブ



フィルターネックチューブ



## フューエルインジェクションレール(FIR)

L型



丸型



樹脂タイプ



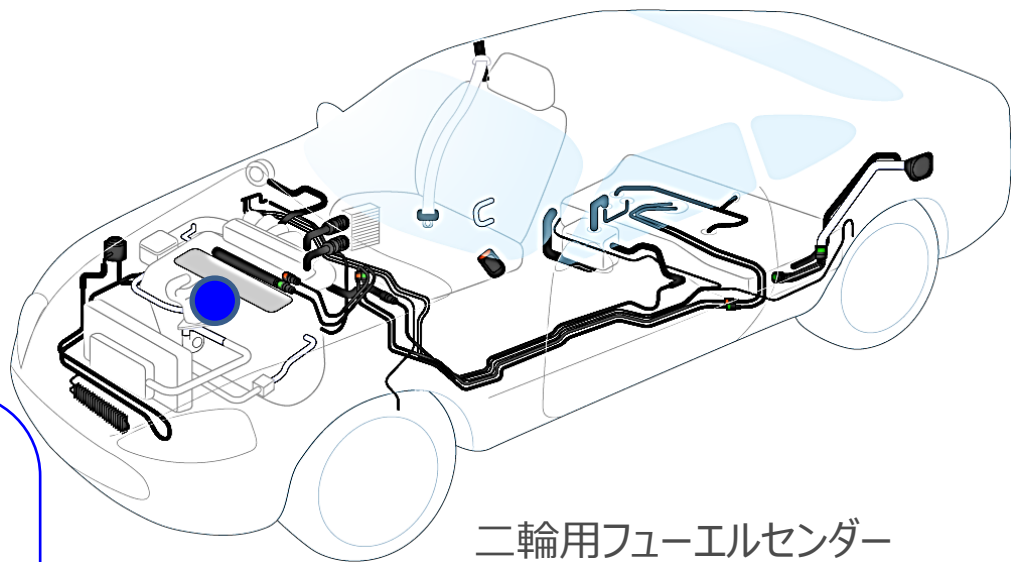
高圧タイプ



## インテークパイプ



## ウォーターパイプ



## 二輪用フューエルセンサー





## 環境製品

EGRパイプ



エアシャッターガイド

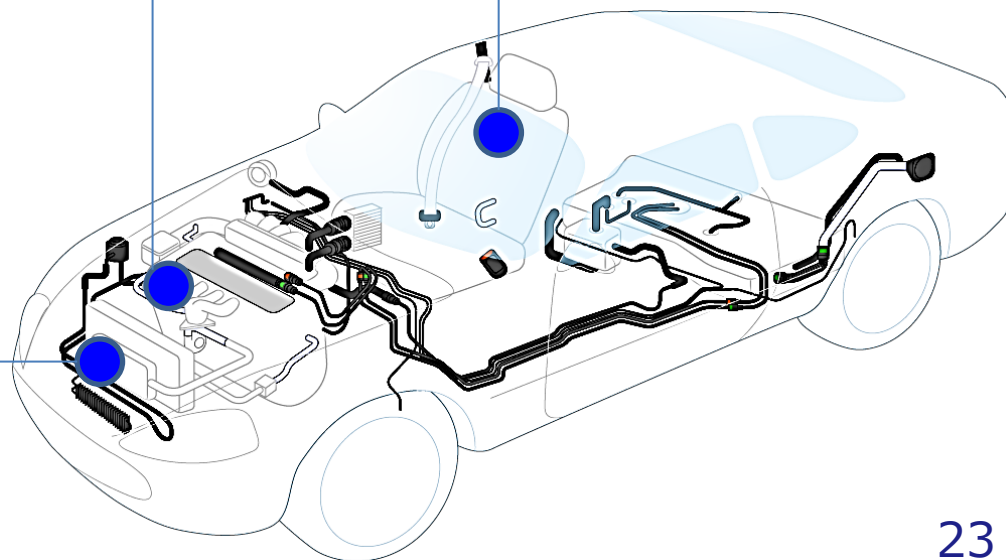


## 安全製品

プリテンショナーパイプ



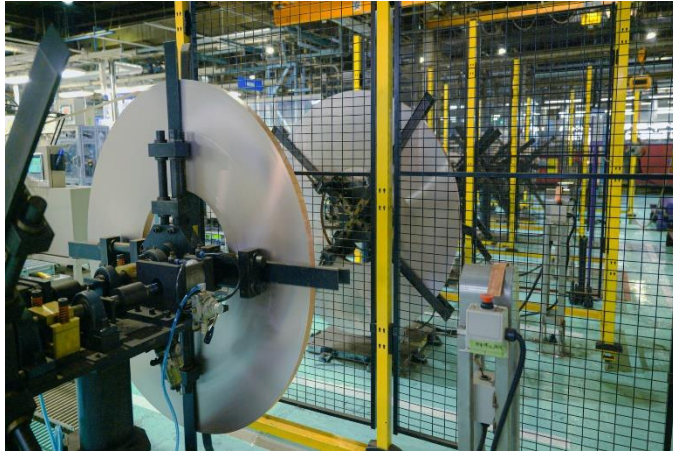
バックル、ショルダーアジャスター



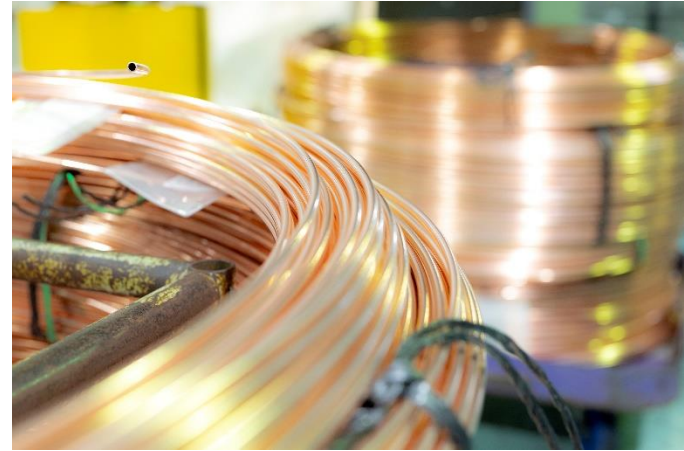


当社の主要製品である集合配管は、①鋼材を引き伸ばし（＝伸線）、②引き伸ばした鋼材を管状に成型し、③管状に成型した鋼材に曲げ加工等を施し、④それら複数の管状に成型した鋼材を組み付けて出荷します。

①鋼材の伸線



②パイプ加工



③曲げ加工



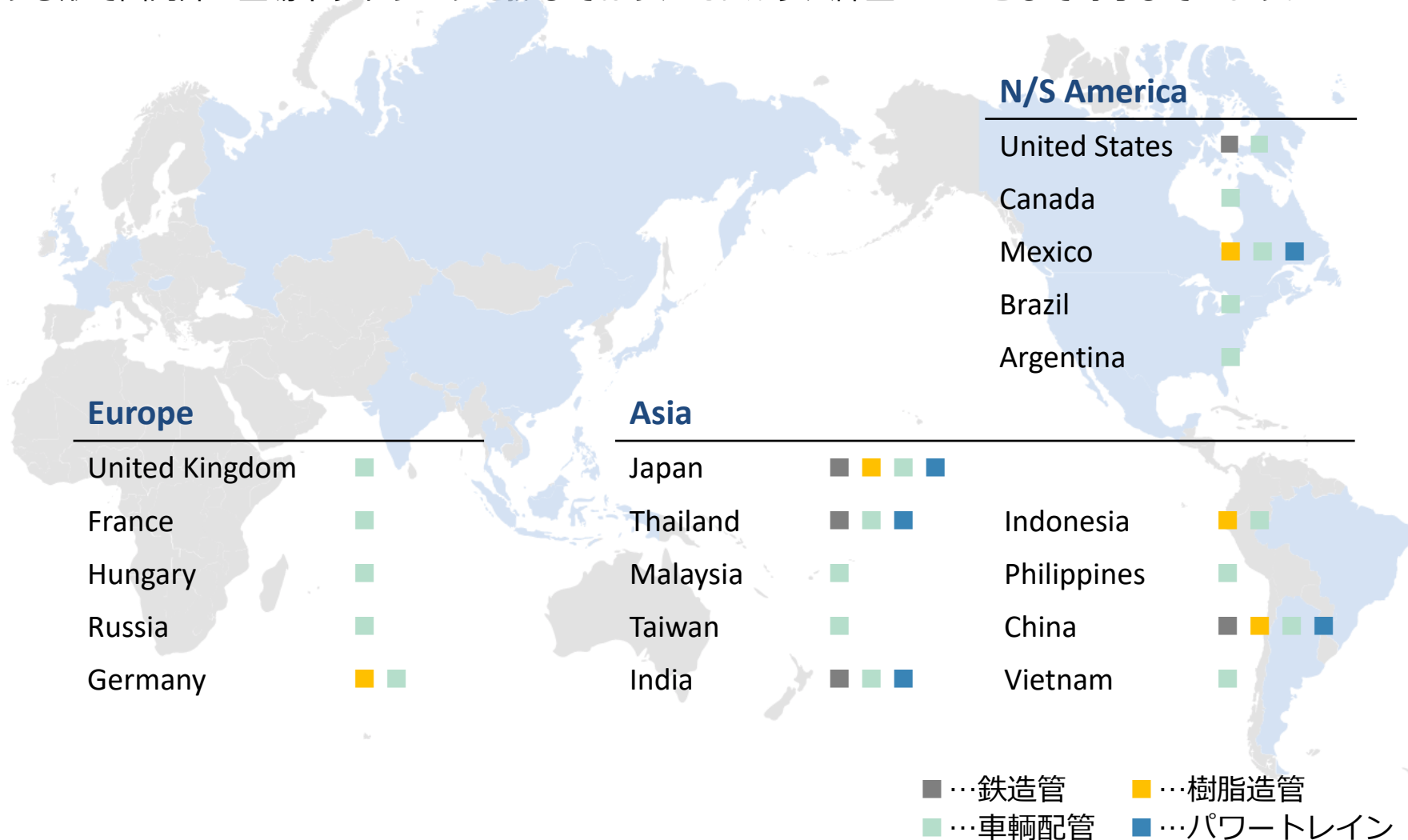
④組付け・出荷



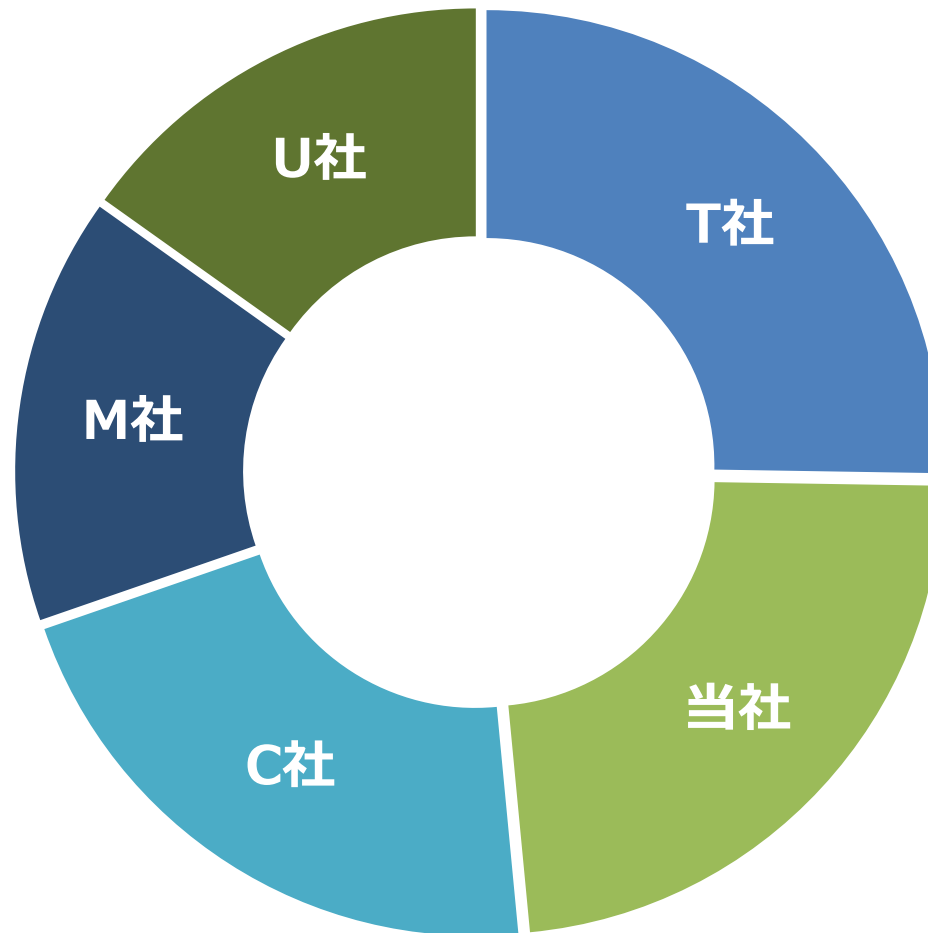
当社の主要製品である集合配管は長物であることから、輸送効率向上のため顧客であるOEMの工場に近接する形で国内外に工場ネットワークを擁しており、それが参入障壁の一つとして寄与しています。



当社の主要製品である集合配管は長物であることから、輸送効率向上のため顧客であるOEMの工場に近接する形で国内外に工場ネットワークを擁しており、それが参入障壁の一つとして寄与しています。



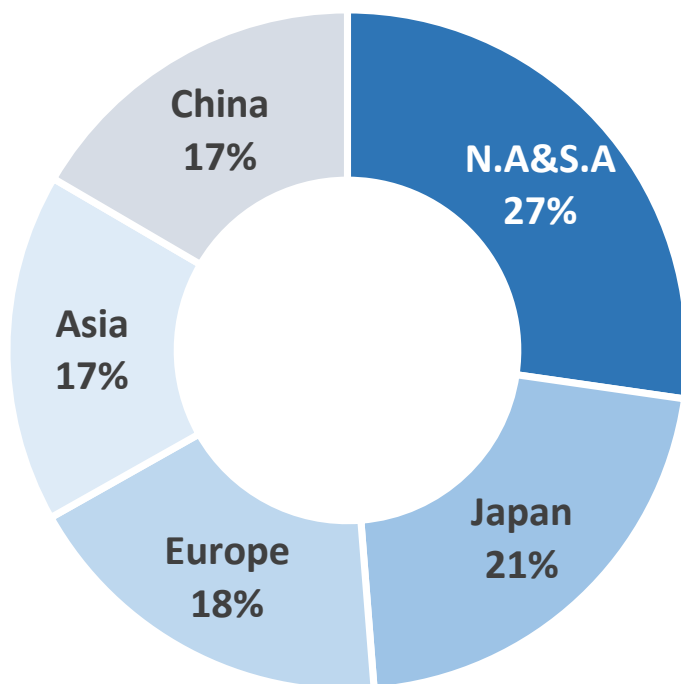
当社が属する車輻配管市場はグローバルベースで競合先数が限定的な寡占市場であり、中でも当社は高い市場占有率を獲得しています。



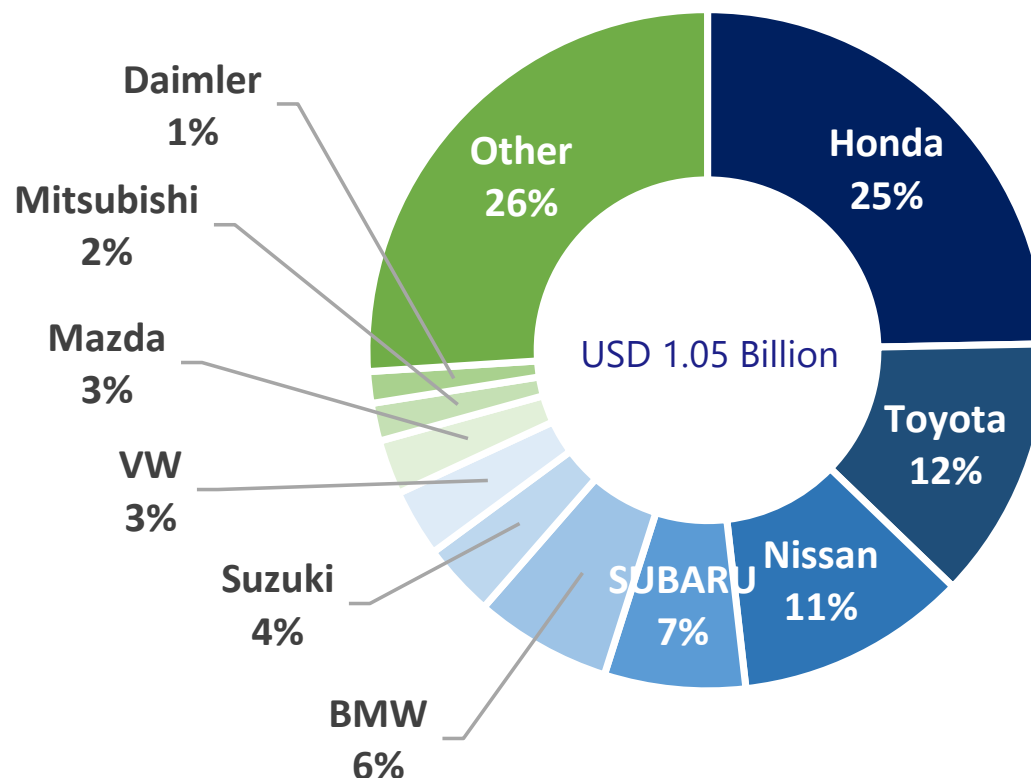
注：当社推定

当社は特定のOEMの資本系列に属さない独立系サプライヤーとして、地域・顧客いずれも偏りなく横断的に事業を展開しています。

## Region



## OEM/Tier1



注：2022年3月期末時点。為替レートは2022年3月期期中平均レート109.8円/USD。N.AはNorth America、S.AはSouth America、VWはVolkswagen

**このプレゼンテーションで述べられている三櫻工業株式会社の業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものです。**

**マクロ経済や当社の関連する業界の動向、新たな技術の進展等によっては、大きく変化する可能性があります。**

**従いまして、実際の業績等が本プレゼンテーションと異なるリスクや不確実性がありますことをご了承下さい。また、大きな変更がある場合は、その都度発表していく所存です。**